

「ケンブリッジ大学英語・学術研修」の語彙力への 貢献

鈴木, 右文
九州大学大学院言語文化研究院言語環境学部門 : 准教授 : 言語情報学

<https://doi.org/10.15017/26316>

出版情報 : 言語文化論究. 30, pp.99-108, 2013-03-26. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン :
権利関係 :



「ケンブリッジ大学英語・学術研修」の語彙力への貢献

鈴木 右 文

1 概要

筆者が毎年実施している「ケンブリッジ大学英語・学術研修」の事前研修期間中において、大学英語教育学会のJACET8000等を利用した計4回の単語テストを実施している。そのテスト結果は、英単語力の上昇を示しており、この研修の成果を数値で示すひとつの材料となっている。しばしば皮肉にも、大学生は、大学の正課で英語を履修するにもかかわらず、入学後時間が経過するにつれて語彙力を含めた英語力が落ちていくと言われるが、語彙力の面から見た場合にも、この研修（特に事前研修）には成果が認められると言えよう。またこの成果は、語学を含んだ海外研修には、事前研修期間を十分に取ることが望ましいということも示しているものと考えられる。

2 ケンブリッジ大学英語・学術研修とは

この研修は、廣田稔九州大学名誉教授（当時は教授）の個人的努力によって1996年に創設されたもので、英国ケンブリッジ大学ペンブローーク・カレッジにおいて、同カレッジの国際プログラム・オフィスの統轄のもとで現地研修部分が実施される¹。廣田教授退職後の2003年度からは筆者が引き継ぎ、現在では、9カ月間の事前研修と3週間の現地研修とから成り立っている。九州大学の公式行事ではなく、世話教員が個人の資格で企画・運営するプログラムであり、これまで平均して毎年30名強の研修生を受け入れてきている。本稿で扱う2012年夏に現地研修を迎えた「2012年組」の場合、九大学生の参加数は28名であった（これまでの平均よりも少ないのは、応募者が少なくなったからではなく、2012年から現地の受入人数に制限が課されたためである）。

募集期間は4～10月で、前期の九州大学の英語科目において同僚の教員にチラシの配布を依頼し、興味を持った学生を対象に複数回の説明会を実施し、HP上にアップした募集要項に基づいて応募してもらう²。10月末には書類審査で、短期間での面接が可能になるだけの人数に絞り、一人あたり30分程度の面接を経て、最終的には11月上中旬頃に合格者を決定する。書類選考においては、応募人数が多い場合、九州大学の1年生に6月頃行われているTOEFL-ITPのスコア、学業におけるGPAや英語科目の成績その他により絞り込みをかけ、面接においては、英語学習の明確な目的、顕著な向上心、精密に粘り強く事前研修を進めていける力、集団の中でしっかりやっていけるだけの協調性、アルバイトで勉強時間を削る必要のないだけの安定的な資金計画（途中で辞退する可能性も少ない）、などの観点から選考する。

合格発表の後は、12月、4月、6月、8月の4回にわたる学習連絡会への出席が求められる。学習連絡会では、英国に関する調査研究の発表、事前研修で使用する英国史の教科書のノートの提出、英国史の要約の発表、先輩による講話などを中心に、旅行の計画や手配の方法の学習、発音やケン

ブリッジの概要等に関する学習なども加わる。また、パスポート、現地への健康申告書、現地からの招請状、大学への海外渡航届、現地研修での専門科目の選択届など、事務手続きもかなりある。学習連絡会以外にも、事前研修期間中は、世話教員のアドバイスを参考にして研修生自身が作成した計画に基づき、英語や英国文化等に関する勉強を進める。その進行に関しては、随時メール等により、世話教員から研修生への指導を行う。この他、全員に強制するわけではないが、週に1回ほど、あらかじめ決めた曜日の昼休みに、各種の打合せ、質疑、英語対話の練習などのために、手配された教室に顔を出すことを推奨する。

現地研修では、英語科目の他、人文・社会・自然の中からひとつの専門科目を選んでもらう。教員は、ペンブローック・カレッジの責任において選任された方々で、現職のケンブリッジ大学の教員の他、ケンブリッジ大学で Ph.D を取得された方々など、少なくとも大学レベルで教える資格のある方々である。

この他、評価や研修生の声なども含めた本研修の詳細な全貌については、鈴木（2013）を御覧いただきたい。

3 研修生の語彙学習の取り組み

研修生に対しては、4～10月に研修参加への申込みがあり次第、最終的な合格発表を待たずに、ボキャブラリー・ビルディングを開始するように要請する。何をどのようにして語彙の学習を行えばよいのかについては、研修の HP のうち、英語学習について説明したページを参照してもらう。そこに書かれている事項をそのまま下記に引用しておく。科学的に正しい事実を言っているとは限らず、多分に学習を促すための方便という部分もあることをお断りしておく。

引用開始

英語学習の地道な努力の中でも最も地道な作業は語彙の習得です。大学英語教育の中で、読解やリスニングやディベートなどが取り上げられていても、ボキャブラリー・ビルディングが体系的に取り入れられているという例はあまり耳にしません。それだけ個人の自発的努力に委ねられていると言えます。

単語は継続が力になります。実技とは異なり、覚える行為そのものはあまりおもしろいものではありませんが、スポーツの基礎に筋力トレーニングがあるのと同じで、楽しくなくてもぜひしておかなければならないものです。

よくある勉強法としては、リーディングなどの訓練の中で、知らない単語に出くわしたらその意味を調べるといったものがあります。しかし、たまたま出会った単語のみを覚えていくというのでは間尺に合いません。強制注入が必要です。在外実用最低レベルとしてよく企業等で基準に採用されている TOEIC730点レベルに達するには、7000語レベルが必要だと言われています。また、一般英語学習者の最終目標は8000語レベルとも言われています（大学英語教育学会）。それに対し、普通は読む英文中の単語の9割程度が高校までの3000語レベルでカバーされますが、それを越える7000～8000語ということになると、出会ったら覚えるというのではなくて、強制注入しないと追いつきません。しかも引き出して使える単語（運用語彙）は知っているだけの単語（認知語彙）の7分の1という説もあります。知っているだけの単語を増やさないと使える単語も増えません。こうなると、英会話を志すのであれば、ますます語彙の刷り込みが必要だということになります。

単語を覚えるという場合、意味だけを覚えてもだめで、その単語が前後に何を従えるかという情

報が英文の組み立てに必要になります。いかに単語の語彙情報を習得することが重要かがわかると思います。例えば、同じ希望を表す want / hope が後に for you to go を取れるかどうかで対立し、inform は「inform+知らされる人+of+知らされる情報」のパターンで使用するということを知らずに、縦横無尽にこれらの動詞を使うことはできません。また、後述するように、発音の情報も大切なので、単語を覚える際には、発音記号も同時に確認する習慣をつけることが大切です。

とにかく単語はすべての基本です。知らない単語はリスニングで粘っても聞き取れません。また、伝えたい気持ちを裏切らないためには単語が命です。

語彙学習の具体的方法を提案します。まず九州大学全学教育の言語文化基礎科目の英語 I でかつて使用されていた共通教科書『A Passage to English 大学生のための基礎的英語学習情報』（九州大学大学院言語文化研究院英語共通教科書編集委員会編：九州大学出版会）の第3版までに付属していた語彙リストの部分（10-16章）がとても勉強になります。オンラインで利用してください（<http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~passage/passage.html>）。特に抽象語彙をものにしましょう。何といっても皆さんの英語力は学業や仕事などで活かすためのものですから。

また、検定試験を受ける方は、試験対策の段階別教材の利用がお勧めです。試験対策として出現頻度の高いものが選定されているからです。

日常語彙については *Oxford Photo Dictionary* を推薦します。洋書を置く大型書店で Oxford University Press のコーナーを探すと見つかります。電子レンジ、じょうろ、ブランコ、おたま、まな板などは英語で言えますか？腕立て伏せやかくれんぼは？こうした基本的語彙を知らずに日常英会話もないものでしょう。（答えは microwave oven, watering can, swing, ladle, cutting board, pushup, hide-and-seek）

さらに、自分の学業上の専門分野やその他の関心事項の語彙を調べることをお勧めします。例えば大好きな洋画の話題は原題がないと通じません（<http://www.imdb.com>）。邦題は原題と似ても似つかないことがままあるのです。

どうしても使用単語集が決まらない人には、『JACET8000英単語』（桐原書店）、『英検 PASS 単熟語』（級別：旺文社）をお勧めします。前者は、大学英語教育学会の総力を挙げて主要な8000語を選定し、それらを千語ごとに8段階の重要度ランクに分け、必要に応じて例文を付したものです。後者は英検の級ごとの単語集で、はっきりとランクの違いが見てとれます。また、九大在学中は、アルク教育社のネットアカデミー2が利用できますので（<http://gogaku.kyushu-u.ac.jp>）、「道場」という携帯でも利用できる語彙学習プログラムをお試ください。

単語集の選び方ですが、語彙がずらりと並んでいる単語集の場合、平均して1ページに知っている語彙とそうでない語彙が半々くらいとなっているものが取り組むのにちょうどよいと思います。全く知らない単語ばかりではつらいばかりで、中々先へ進めないことにいらだちを覚えることでしょうし、知っている単語ばかりでは、作業は快適でしょうが、効果は薄いということになります。

ところで、単語集で単語を覚えていくときに、一度見ただけでは覚えられないはずもなく、繰り返し取り組んでいくことになるわけですが、一冊通してから繰り返すのがよいのか、それとも途中からもとに戻る方がよいのかと迷っていらっしゃる方もおられるでしょう。これは単語集にどれだけ時間をかけることができるのかという現実的な条件に左右されるのですが、一般に、狭い範囲を繰り返して固めてから先へ進む方が有利だと思います。

引用終了

このようなアドバイスのもとに、研修生には自分で使用教材を選定し、それを英語学習計画の中

に盛り込んでもらい、12月の学習連絡会の後、12月中旬あたりを締切として提出させる。この計画に含めるべきものとして、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング、英国文化の他に単語が挙げられており、使用教材とその取組方法も明記が求められる。この計画に対して筆者からのさらなるアドバイスを知らせ、4月学習連絡会、6月学習連絡会、8月学習連絡会それぞれの直前に、進捗状況を報告してもらうことになっている。このようにして、約8カ月強の間、単語力の増強に取り組んでもらう。

4 大学生の英語語彙力の変化

ケンブリッジ大学英語・学術研修の研修生の英語語彙力の変化を調べようと思ったのは、2012年夏に現地研修を迎える研修生たちに、事前研修の中で単語テストを何度か受けさせているうち、全体として得点の上昇傾向が見られるのではないかという印象を持ったからである。初めから厳密な検証を目指したわけではないので、今回の検証の方法には現実的な制約があった。最も目立つのは統制群の欠如である。本来であれば、比較対象とする統制群として、九州大学の非研修生に対し、語彙力の変化を同じテスト問題を使って調べるのが理想的であるが、いわゆる後の祭りであった。しかし、仮に最初から比較を目指して統制群を設けようとしても、それは現実問題として難しいという側面もある。

第1に、同研修の事前研修において単語テストを実施する学習連絡会は、12月上旬、翌年の4月上旬、6月上旬、8月中旬の計4回であるが、12月と4月以降とは学期も年度も変わるため、同じ統制群に対してテストを実施することが著しく困難である。

第2に、8月に入ると定期試験期間となり、非研修生にわざわざ集まってもらって単語テストを実施したり、定期試験の問題に単語テストを混ぜたりするということは、そもそも教育的配慮を欠く。

統制群を欠いているかわりに、Okamoto (2008) に見られるデータを紹介しておく³。Longman Dictionary of Contemporary English (20ページ毎のページ冒頭の語) と Collins Cobuild Learners' Dictionary (8ページ毎のページ冒頭の語) から抽出した163語についての多肢選択問題が、テストとして京都大学の3学部1年生128名と10学部2年生163名に同時に課された。その結果は、1年生の平均正解率が61.14%であるのに対し、2年生の平均正解率は58.53%であった⁴。このことから、大学2年生は、大学における正課としての英語科目を1年生よりも長く履修しているはずであるにもかかわらず、1年生に比べて語彙力が伸びておらず、それどころか減少しているとすら言えよう。もっとも、こうしたデータを見るまでもなく、大学英語教育に携わったことがある教員であれば、残念ながら、1学年の学生全体の英語力が学年進捗とともに上がっているとは到底思えないであろうし、学生からも、入学後時間の経過とともにかえって英語力が落ちているという話をよく聞く。英単語に関して言えば、大学入試における英語試験のためといった明確な目標がないため、入学後に単語集を相手に精進する時間が少なくなってしまうのが普通だと考えられる。

5 研修生の英語語彙力の変化

2012年夏に現地研修を迎えた「2012年組」に対して、2011年12月3日の第1回学習連絡会、2012年4月14日の第2回学習連絡会、2012年6月9日の第3回学習連絡会、2012年8月16日の第4回学習連絡会において、単語テストが実施された。

5.1 単語テストの出題元の資料

出題された単語は1回のテスト当たり40問で、そのうちの35問が相澤他（2005）より、5問が旺文社編（2008）より、それぞれ選ばれている。相澤他（2005）は、大学英語教育学会の基本語改定委員会が選定した8000語に基づいていて、British National Corpus と独自のサブコーパスのデータによる頻度を考慮したものである⁵。1000語レベルから8000語レベルまでの8段階に分けて1000語ずつを選定してある。これの2000語レベルから8000語レベルまでの7段階からそれぞれ5題ずつ出題する。選択は、頻度順位の下の3桁の数字を思いつきで5つ選んだ。例えば233, 398, 497, 693, 805を選んだ場合、頻度順位1233, 1298の語から始まって、7693, 7805までの35語が選ばれる。派生語が派生元の語とともにそちらで扱われているなどのために、その順位にあたる単語が記載されておらず、空位になっている場合があるが、そうしたものに当たった場合は、かわりに最も順位の近い語を選ぶ（そうした「最も順位の近い語」が順位のより高い方とより低い方で2つあるまれなケースでは、当該レベルに選定されるによりふさわしいものと筆者が直観で感じる方を選んだ）。

旺文社編（2008）から5題が加えられているが、これは、相澤他（2005）の8000語のレベルまで到達している研修生がいる場合に備えてのことであり、この英検1級用の単語集から、筆者の感覚で10000語超のレベルではないかと思われる語を5つ選定し、JACET8000に含まれていないことを確認した上でテストに混ぜた。こちらの選択については特段の難易度に関する基準なく選び出しているが、実際問題として、2012年組の4回のテストの合計20題（5題×4回）×24名（人数については後述）のべ480題のうち、正解は4題だけしかなく、本稿の主張にまず影響を与えることはない。

このようにして、毎回の単語テストの難易度はほぼ一定に保たれているのではないかと考えられる。

5.2 出題された語

4回の学習連絡会では、それぞれ下記の単語を出題した。各単語についての和訳を求め、試験後に正解として典型的な和訳を示し、よりマイナーな意味や品詞が異なっている場合等でも、受験者本人の判断により正解として自己採点させた。始めから検証することとしていれば筆者が採点したところであるが、最終的に回収した解答用紙を見る限り、著しい採点の誤りはほとんどなかった。以下に各回で出題した語をレベル別に分けて示す。

・12月学習連絡会

- 2000語レベル：tax, military, bit, reserve, potato
- 3000語レベル：ruin, handsome, tournament, radiation, punish
- 4000語レベル：investigation, attribute, departure, widow, copper
- 5000語レベル：plea, suppress, prescribe, lobby, offset
- 6000語レベル：dim, bleak, excavation, campus, relish
- 7000語レベル：masculine, rigorous, redemption, frantic, aide
- 8000語レベル：midwife, prick, segregation, turnout, tavern
- 10000語超：cantankerous, fastidious, pyromaniac, perdition, obesity

・4月学習連絡会

- 2000語レベル：suit, hall, recreation, iron, mouse

3000語レベル : empire, funeral, instant, ugly, shame
 4000語レベル : scarecrow, minimum, discourse, pregnant, damp
 5000語レベル : fatal, onward, laser, fertility, glue
 6000語レベル : evoke, spy, astonishing, butcher, chuck
 7000語レベル : blossom, volcanic, militia, ongoing, exquisite
 8000語レベル : subside, wrinkle, plentiful, ethanol, aspirin
 10000語超 : flagging, irate, profligate, cantankerous⁶, putative

・ 6 月学習連絡会

2000語レベル : flow, row, concept, confidence, violence
 3000語レベル : initial, discrimination, obey, sword, breeze
 4000語レベル : submit, halt, breach, terrace, kit
 5000語レベル : forbid, intake, wee, amuse, stain
 6000語レベル : hobby, plug, pigeon, prone, manpower
 7000語レベル : inmate, dementia, bloc, butt, multitude
 8000語レベル : auxiliary, dismal, sensor, falcon, westward
 10000語超 : platitude, portentous, trite, pelt, malt

・ 8 月学習連絡会

2000語レベル : admit, conflict, professor, fashion, railway
 3000語レベル : incident, module, tension, grasp, rumor
 4000語レベル : impose, headquarters, gang, modest, whip
 5000語レベル : rigid, levy, proclaim, amid, swell
 6000語レベル : disguise, carrot, pier, spouse, superficial
 7000語レベル : shrine, ripple, entrant, laundry, comeback
 8000語レベル : wow, foreseeable, raider, vogue, groin
 10000語超 : entreat, defection, braille, abject, blasphemy

5.3 答案のデータ

この研修に参加した九州大学の研修生は28名であったが、そのうち本稿で分析の対象にするのは24名分である。4名分少ないのは、最終の8月の学習連絡会に欠席して解答用紙を回収できなかった者が2名おり、また提出があっても、8月以前の学習連絡会に欠席したため、データとして不完全で除外すべきと考えられる者が2名いたからである。

表1は、12月の成績が低い順に、4回の学習連絡会における単語テストの点数の推移を示したものである。A～Xは24名の研修生を表し、4つの数字は、上から順に、12月学習連絡会での点数／4月学習連絡会での点数／6月学習連絡会での点数／8月学習連絡会での点数である。それぞれの点数は、40問の出題に対する正解数を表している。

表1 試験結果の推移

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X
12	9	10	10	10	11	12	12	12	13	13	13	14	15	16	17	17	18	18	18	18	20	21	22	25
4	11	12	12	14	13	16	10	20	14	13	15	13	17	21	12	19	19	16	29	18	20	19	21	29
6	14	16	14	14	8	21	19	17	14	18	18	14	16	22	13	18	26	17	30	23	24	23	23	26
8	15	17	18	16	20	19	20	15	16	18	18	17	23	16	12	18	22	19	24	25	19	18	19	26

5.4 データの観察

表1の点数を観察すると、全体に回を追うごとに点数の上昇傾向が見られるような印象を受ける。そこで各回の平均点を実際に求めてみると12月学習連絡会が15.2、4月学習連絡会が16.6、6月学習連絡会が18.9、8月学習連絡会が18.8となった（小数点第2位を四捨五入）。グラフにまとめると図1のようになる。

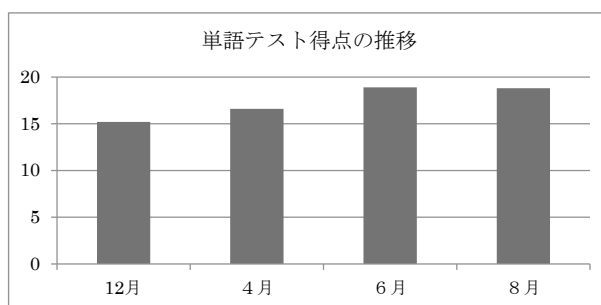


図1

8月学習連絡会時の単語テストにおいては、6月時のものに比べて平均点の向上が見られないが、九州大学の前期末の試験が7月下旬から8月上旬にかけて行われ、学期末のレポートが課される場合にもその期間に締切が設定されることが多く、6月から8月にかけての期間は、それまでの期間に比べて、単語にあまりエネルギーを注ぐことができなくなる。このことが一因にあると思われる。また、現地研修への出発が間近になり、下積みの作業のボキャブラリー・ビルディングよりも、ショート・スピーチや、耳慣らしとしてのリスニングの作業、現地での課題作成に備えた高速なライティングの訓練、現地で訪問する予定の場所に関する勉強など、より実践的なものを優先させたのではないかと考えられる。筆者は単語だけはどんなに多忙なときでも譲ってはいけないいわば絶対防衛ラインであると日頃から強調しているのではあるが、実際問題として、学期末の試験対策と英語の実践的訓練・訪問先の勉強とボキャブラリー・ビルディングとを、この時期にすべて完全に行うということはかなり難しいのであろう。従って、6月から8月への点数の伸びが観察されなくても、事前研修中4回のテストを通じて、語彙力が受験者集団全体として向上したとは言えるであろう。向上している者がこんなに多いのは偶然とは言えない確率が極めて高い。このことは、ケンブリッジ大学英語・学術研修の事前研修が、語彙力向上に大いに貢献していることを示すと言えるのではないかと考える。

6 なぜ伸長がみられるのか

大学生が一般に、入学後英単語を含め英語力が伸長しないと言われているのに対し、ケンブリッ

ジ大学英語・学術研修の研修生について英単語力の伸長が見られることについて、いくつか考えられる理由がある。

第1に、この研修で学習連絡会のたびに英単語テストを実施していることが挙げられる。このように、完全に自分の力だけでボキャブラリー・ビルディングを進めていくよりも、研修という枠をはめられることによる強制力が働くことがプラスに作用していることは間違いなかろうと思われる。

第2に、事前研修を通じて、語彙力の上昇が英語の諸技能の能力開発にとって鍵となることを理解させることを目的に、丹念に指導がなされていることが挙げられる。知らない単語は読解での読み取りもリスニングでの聞き取りも極めてしにくい。単語はあらゆる技能の基盤であるといえることができる。現に、研修生から帰国後に寄せられるレポートの中には、事前研修の中で単語の勉強に力を入れておいてよかったと思う場面に現地研修で遭遇したといった報告がいくつも見られる。

第3に、大学卒業に必要な英語の単位を取得する上で漫然と英語科目を受講しているだけでは単語力が伸びにくいのにに対し、語学研修に参加する予定であるということ、世界最高クラスの大学であるケンブリッジ大学が現地研修の舞台であること、集団で競い合いながら事前研修に臨むことなど、研修の様々な側面がモチベーションを高めていることを指摘することができる。

第4に、そもそもこの研修には、書類審査や面接などを通して、学業が優秀で学習意欲の高い学生が選抜されており、向上心のもとと強い学生が参加しているということも挙げられるだろう。ただ、そうした学生たちであっても、この研修があればこそ伸びる面があるのだろうと思われる。

以上のように、筆者の企画・運営するケンブリッジ大学英語・学術研修は、現地研修の舞台が世界トップクラスのケンブリッジ大学であることをはじめ、運営側の努力によっても、申込者にとって魅力の大きい事業となっていて、そのことにより、参加者の語彙力の向上も成し遂げられているということを、本稿は示していると考えられる。このことは、ひいては、海外研修というものはそもそも丁寧で十分な期間の事前研修と組み合わせることが望ましいということを示しているとも言える。

さらに、事前研修なしで現地研修のみによって本研修が成り立っているとした場合、3週間の現地研修だけでどのくらい語彙力が增強されるのかを調査してみたい気もする。事前研修への出席を義務としている現状では、現地研修のみで研修を成立させるということはある得ないのだが、恐らくは現地研修のみの場合、事前研修がある場合に比べて、語彙力の伸長は限定的であるものと予測できる。

7 まとめ

本稿では、筆者が世話教員を務める「ケンブリッジ大学英語・学術研修」の成果のひとつとして、英語語彙力の增強が挙げられることを見た。さらに、それを可能とする事前研修が海外研修の中に含まれることが望ましいことを主張した。

注

- 1 Pembroke College は本来「ペンブルック・コレッジ」と表記した方が現地での発音により忠実であるかもしれないのだが、これまで各所で使用してきた表記に合わせて「ペンブローック・カレッジ」と表記する。

- 2 研修の HP は <http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~yubun/cambridge.html> である。
- 3 この論文については、京都大学の田地野彰先生と金丸敏幸先生に御教示いただいた。記して感謝申し上げたい。
- 4 対象学部にずれがあることが気にならないでもないが、現実的制約から同規模の人数確保を優先したものと想像できる。
- 5 この記述は下記のウェブページを参考に行っている（アクセス日10/05/2012）。
<http://www.cis.doshisha.ac.jp/kkitao/Japanese/library/resource/corpus/JACET8000.htm>
- 6 12月学習連絡会と重複した出題になってしまっているが、どちらのテストでも正解者はいなかったため、大勢に影響はないものと思われる。また残念ながら、12月のテストで正解できなかった語を復習してものにできている研修生がひとりもいなかったことを意味するのだが、このレベルの単語にまで力が回らないのも実情であろう。

参 考 文 献

- 相澤一美・石川慎一郎・村田年（編集代表）（2005）『『大学英語教育学会基本語リスト』に基づく JACET8000英単語』、桐原書店。
- 旺文社編（2008）『英検 Pass 単熟語 1 級 [改訂新版]』、旺文社。
- Okamoto, Mayumi（2008）“Assessing lexical knowledge of English at low-frequency levels: implications for vocabulary teaching,” *Annual Review of English Language Education in Japan*, No.19, pp141-150.
- 鈴木右文（2001）「海外英語研修の意義—ケンブリッジ大学で学ぶ九大生—」『言語文化論究』第13号、163-75頁。
- 鈴木右文（2009）「海外英語研修の効果と条件—九州大学のケンブリッジ大学英語研修—」『言語文化論究』第24号、19-27頁。
- 鈴木右文（2013）『ケンブリッジ大学英語・学術研修への招待—名門校で学ぶ、暮らす、国際人になる—』、九州大学出版会。

An English and Academic Training Program at the University of Cambridge and the Significant Increase of the Participants' Vocabulary

Yubun SUZUKI

The main claim of the present article is that the preparatory session of the author's academic training program for English enables the participating students to develop a larger vocabulary of the language when it is said that university students generally fail to improve their English proficiency including vocabulary after matriculation. This program consists of a nine-month preparatory session at Kyushu University starting in November and a three-week overseas session held at Pembroke College, the University of Cambridge, in August and September of the next year. The participants are required to devise a plan to study English and the British culture for the long preparatory session. They have four vocabulary quizzes during the preliminary part of the program and their scores show gradual improvement, which means that the training program constitutes a considerable contribution to the development of a stronger personal vocabulary. The advantageous feature of the training program related with vocabulary points to the preferable existence of the preparatory period and thereby the usefulness of the program as a whole.